

※本文内の()内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎増減が目立った大学

□志願者数が最も増加した大学は大阪公立大、最も減少した大学は横浜国立大

ここでは、大学全体の志願者数が大幅に増減した(500人以上)国公立大についてまとめます。

500人以上増加した大学は8大学(国立大6大学、公立大2大学)、500人以上減少した大学は14大学(国立大9大学、公立大5大学)でした。

志願者数が最も増加した大学は大阪公立大で、前期、後期、中期の全日程で増加した結果、大学全体では、1,074人(108)の増加でした。大阪公立大に次いで増加したのは大分大で、1,040人(134)の大幅増加でした。大阪公立大、大分大の2大学が1,000人以上の増加です。日程別で最も志願者数が増加した大学についても見ていきます。前期で最も志願者数が増加したのは徳島大で、556人(131)の大幅増加でした。4年ぶりの増加で、志願倍率も4年ぶりに3倍を上回りました。後期では電気通信大で、725人(135)の大幅増加でした。前年度、全ての類で減少しましたが、転じて情報理工(III類)(153)をはじめ全ての類で大幅増加しました。公立大のみの中期では、大阪公立大で、428人(107)のやや増加でした。工のみの募集で、2022年度の大学統合による新設後、最多の志願者数でした。

一方で、志願者数が最も減少した大学は横浜国立大で、1,281人(87)の減少でした。1,000人以上減少した大学は他にありませんでしたが、広島大(85)、茨城大(83)、都留文科大(76)、富山大(86)の4大学で900人以上減少しました。なお、茨城大は2年連続で後期の募集人員が10%以上減少したこともあり、志願者数も2年連続で500人以上減少しました。日程別では、前期で最も志願者数が減少したのは東京都立大で、693人(87)の減少でした。前年度、前期だけで838人(119)の大幅増加でしたが、転じて全学部で減少となりました。後期では横浜国立大で、733人(88)の減少でした。ただし、前年度に引き続き、後期では最も志願者数の多い大学となっています。公立大のみの中期では都留文科大で、文(74)、教養(74)とも前年度大幅増加の反動で大幅減少しました。

[増加が目立った大学]

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2026年度 / 2025年度	2025年度 / 2024年度	2026 年度	2025 年度	
大阪公立大	+1,074	108	99	15,231	14,157	前期、中期はやや増加、後期は増加。前年度、全ての日程で微減だったが、全て増加に転じた。その結果、大学全体の志願者数は2022年度の大学統合による新設後、初めて15,000人を上回った。前期は、商(134)、農(133)でいずれも大幅増加。後期では、看護(188)、経済(140)、法(128)でいずれも大幅増加。
大分大	+1,040	134	86	4,089	3,049	前期、後期ともに大幅増加。前期では、教育(278)は前年度半減の反動で約2.8倍増、前年度の反動による大幅な増減が継続。理工(154)は3年連続減少の反動で大幅増加。後期では、教育(287)は前年度大幅減少の反動で約2.9倍増、理工(190)は大幅増加。
徳島大	+783	119	95	4,998	4,215	前期は大幅増加、後期は増加。前期では、歯(198)はほぼ倍増、生物資源産業(153)、理工(135)はいずれも大幅増加で2年連続増加、薬(123)も大幅増加。後期では、生物資源産業(174)は大幅増加、薬(110)、歯(108)、医(104)はいずれも2年連続増加。
電気通信大	+779	122	93	4,287	3,508	前期はやや増加で3年連続増加、後期は前年度減少の反動で大幅増加。情報理工のみの募集で、前期では、I類(113)は3年連続増加、志願倍率は5倍を上回った。III類(104)はやや増加、一方で、II類(92)は減少。後期では、全ての類が前年度減少の反動で大幅増加。
長崎県立大	+706	123	93	3,827	3,121	前期、後期ともに大幅増加。前期では、経営(87)を除く5学部で増加。特に、地域創造(167)、看護栄養(116)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。後期でも国際社会(95)を除く5学部で増加。特に、地域創造(152)、看護栄養(139)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
佐賀大	+681	117	93	4,710	4,029	前期は大幅増加、後期はやや増加。前期では、新設のコスメティックサイエンスを除いても大幅増加で、特に、医(看護)(176)、教育(163)、理工(126)、医(医)(117)、経済(115)は大幅増加。後期では、新設学部を除いても微増。教育(125)、理工(117)は大幅増加。
鳥取大	+542	116	74	4,000	3,458	前期は増加、後期は大幅増加。前期では、大幅増加の工(178)のみで300人以上の増加。後期でも、工(146)のみ450人以上の大幅増加、他の学部はいずれも減少だった。
金沢大	+501	114	100	3,985	3,484	前期のみの募集で、4年ぶりの増加。理系一括(161)は2年連続大幅増加。融合学域(158)も大幅増加で、2023年度以降、前年度の反動による大幅な増減が継続。医薬保健(医)(134)も前年度大幅減少の反動で大幅増加。

[減少が目立った大学]

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2026年度 ／ 2025年度	2025年度 ／ 2024年度	2026 年度	2025 年度	
横浜国立大	-1,281	87	112	8,356	9,637	前期は大幅減少、後期は減少。前期、後期ともに全学部で減少だった。前期では、都市科学(72)、教育(77)、経済(84)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。経営(94)はやや減少で3年連続減少。後期では、都市科学(73)は2年連続増加の反動で大幅減少。
広島大	-990	85	108	5,712	6,702	前期は減少、後期は大幅減少。前期では、文(58)、生物生産(75)、医(医)(77)、理(78)、歯(口腔健康科学)(78)、経済(80)はいずれも大幅減少。後期では、廃止の法等を除くと(96)のやや減少。文(57)、薬(60)、歯(歯)(65)、理(82)はいずれも大幅減少。
茨城大	-951	83	91	4,715	5,666	前期、後期ともに大幅減少で2年連続減少。前期では、人文社会科学(101)を除く学部で減少。特に、地域未来共創(60)、教育(67)、農(77)、工(83)はいずれも大幅減少で2年連続減少。後期では、いずれも募集人員20%以上減少の教育(56)、理(56)は大幅減少。
都留文科大	-944	76	133	2,967	3,911	前期は減少、中期は大幅減少。前期では、文(56)は前年度約1.5倍増の反動で大幅減少。教養(111)は増加だが、学科別で増加したのは教養(比較文化)(282)のみだった。中期では、文(74)、教養(74)ともに前年度大幅増加の反動で大幅減少。
富山大	-911	86	126	5,746	6,657	前期は大幅減少、後期は減少。前期では、医(医)(36)は前年度約2.5倍増の反動で激減。工(66)、理(67)もいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。後期では、人文(58)、理(78)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
山形大	-854	79	114	3,214	4,068	前期は減少、後期は大幅減少。前期では、農(69)は大幅減少、医(医)(73)、工(74)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。後期では、人文社会科学(135)、医(看護)(114)を除く学部は全て大幅減少。廃止の医(医)、地域教育文化を除いても(77)の大幅減少。
東京都立大	-700	91	122	7,166	7,866	前期は減少、後期は微減。前期では、全学部で減少。特に理(76)、人文社会(85)、システムデザイン(85)はいずれも大幅減少。後期では、人文社会(77)、法(80)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
島根県立大	-694	58	142	956	1,650	前期、後期ともに大幅減少。前期では、人間文化(121)を除く3学部で大幅減少。特に、地域政策(22)は前年度約5.8倍増の反動で激減。看護栄養(65)、国際関係(72)は大幅減少。後期では、地域政策(62)、国際関係(82)ともに大幅減少。
群馬大	-676	78	115	2,370	3,046	前期は減少、後期は大幅減少。前期では、医(医)(49)は2年連続増加の反動で半減以下、情報(89)は前年度大幅増加の反動で減少。後期では、廃止の共同教育を除くと(87)の減少。情報(55)の前年度大幅増加の反動による大幅減少が目立った。
兵庫県立大	-674	89	98	5,745	6,419	前期、中期はやや減少、後期は大幅減少。前期では、環境人間(76)は大幅減少、社会情報科学(92)は減少でいずれも3年連続減少。後期では、環境人間(45)、国際商経(68)、看護(72)、工(92)と全学部で減少。中期も、社会情報科学(89)、理(96)と2学部とも減少。
宮崎大	-655	85	106	3,843	4,498	前期は減少、後期は大幅減少。前期では、医(医)(32)は前年度約1.5倍増の反動で激減、工(77)は大幅減少で2年連続減少、地域資源創成(83)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。後期では、工(61)、教育(74)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。
東京科学大	-587	87	93	4,070	4,657	前期は減少、後期はやや減少。前期では、理工学系は第1段階選抜基準の引き締めもあり、全学院で減少。医歯学系は医(医)で(83)の大幅減少。後期では、医(保健衛生)(58)は大幅減少、医(医)(86)は3年連続減少。
高知工科大	-582	67	147	1,185	1,767	前期、後期ともに大幅減少。前期では、前年度全学部で増加だったが、反動でシステム工(45)、データ&イノベーション(48)、情報(63)は大幅減少。後期では、理工の廃止もあったが、システム工(37)をはじめ募集を行う4学部全てで大幅減少。
熊本大	-502	89	115	4,117	4,619	前期、後期ともに減少。前期では、医(医)(67)は2年連続増加の反動で大幅減少、医(保健)(72)、情報融合(75)、法(77)、募集人員約20%減少の教育(80)、文(83)で大幅減少。後期では工(78)、法(79)、文(84)の3学部はいずれも大幅減少。